

様式第5号（第10条関係）

パブリックコメント実施結果報告書
【案件名：つくば市未来構想改定（案）】

令和2年（2020年）3月
つくば市政策イノベーション部企画経営課

■ 意見集計結果

令和元年(2019年)12月9日から令和2年(2020年)1月13日までの間、つくば市未来構想改定(案)について、意見募集を行った結果、6人(団体を含む。)から21件の意見の提出がありました。これらの意見について、適宜要約した上、項目ごとに整理し、それに対する市の考え方をまとめましたので、公表します。

提出方法別の人数は、以下のとおりです。

提出方法	人数(団体を含む。)
直接持参	1人
郵便	0人
電子メール	0人
ファクシミリ	0人
電子申請	5人
合計	6人

■ 意見の概要及び意見に対する市の考え方

○ 持続可能都市・SDGs について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	SDGsの位置づけが構想の一部になっているように思われる。SDGsが目標とする社会をみんなで創るために未来構想があるのだといえれば市民は理解しやすい。「SDGs」＝「未来構想」＝「持続可能都市ビジョン」であることを強く打ち出していきたい。	1件	SDGsをまちづくりの基本とし、持続可能都市を目指すことが未来構想の根本となり、「目指すまちの姿」については、持続可能都市ビジョンが基礎となっています。社会情勢や地域特性、市民の声等を踏まえ、SDGsを自治体のスケールに落とし込み、つくば市の未来や戦略として位置づけていることから、第1章にSDGsの説明を追加します。
2	「持続可能な地域づくり」を目指すにあたり、「自然環境との共生」を根底に置き、健全な自然環境のもと、地域の	1件	2030年の未来像として ・公園の中に街があるような緑豊かなゆとりある街並みや、つくばでしか体験できないコトが

	<p>中で暮らしと自然とがつながっていくことがこれからの「未来」にとって必要なことだと思う。そのために、都市計画として自然地を残し保全していただきたい。</p> <p>自然環境を保全し、自然のネットワークをつくっていく必要がある、公務員住宅の建替の際や、研究学園駅周辺地域の開発の際に、市が都市計画として樹木や多様な植物環境を保存する条例設定をしたり、集合住宅建替の際は周辺の多様な植栽を残すエリア設定をする、公園をより自然的な形態へ少しずつ転換したりすることなどが必要ではないか。</p>		<p>街中に散りばめられています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑波山や牛久沼などの美しい景観や豊かで多様な生態系により、多くの人々が自然の恩恵を実感しながら自然を守り育てる意識を持って生活しています。 <p>としており、御指摘の内容を踏まえ、戦略プランに定められた個別施策や個別計画の推進の際に参考にさせていただきます。</p>
3	<p>「持続可能な地域づくり」を目指すにあたり、保育幼児教育から小中高校、生涯教育まで、教育において自然と共生していく暮らしや考え方を学んでいくことを推進していただきたい。</p> <p>一人一人が、自分の暮らしと自然とのつながりを体験したり自然を楽しんだり、自然の中のつながりを学んでいけるような教育を取り入れていく必要がある、その際たる課題が園庭環境・校庭環境である。つくば市の園庭・校庭環境は、従来のグラウンド型が中心であるが、心身の育ちとともに、自然と共生する力を身につけていくために</p>	1件	<p>2030年の未来像として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑波山や牛久沼などの美しい景観や豊かで多様な生態系により、多くの人々が自然の恩恵を実感しながら自然を守り育てる意識を持って生活しています。 ・充実した子育て環境とともに、創意工夫を引き出す遊びの機会が街中にあふれ、親子が一緒に楽しみながら成長しています。 <p>としており、御指摘の内容を踏まえ、戦略プランに定められた個別施策や個別計画の推進の際に参考にさせていただきます。</p>

	も、自然環境を取り入れ、そこで遊び学んでいけるような環境や教育内容へ変えていく必要があるのではないか。		
--	---	--	--

○ 社会情勢 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
4	「(7) 市民参加・民間との新たな協働」について、茨城県が認証したNPO法人数でNo. 1はつくば市の140団体、市民活動センターに登録しているNPO・ボランティア団体数は144。このような人達が地域課題解決のために、色々な主体と協働することはつくば市にとって大きな力となり、新しい公共につながるものであり、市民活動の現状を評価するとともに、協働(つながり)社会に力を注いでいただきたい。	1件	社会情勢等では、世界や日本等の社会全体での潮流を項目別に整理していることから、戦略プランの個別施策において、つくば市の現状・うまくいっている点として記載します。

○ 地域の強み について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
5	「(1) 自然に恵まれたまち」のつぎに「歴史環境に恵まれたまち」をいれるべきである。旭台貝塚、筑波山周辺の寺社、小田城、はじめ、すぐれた遺跡史跡があり、それを市民にとっての財産として行く必要がある。	1件	地域の強みとして、つくば市が持つ悠久の歴史についても自然環境とあわせて追加します。

○ 人口の将来展望 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
6	人口の将来展望について、	1件	合計特殊出生率について、まち

	<p>「合計特殊出生率が2030年に1.8、2040年に2.1に向上すると仮定して推計」:「向上する」の根拠や引用が記載されていない。</p>		<p>・ひと・しごと創生に関する国の人口ビジョンでは、現在の人口を維持するために必要な水準（人口置換水準）である2.1を目指すことが示されています。市としても、2015年に実施した将来の予定・希望子ども数の調査において2.05人となっていることから、出生率の数値目標及び達成時期については国に準拠して定めています。これらのことを説明として追記します。</p>
--	---	--	---

○ 財政の将来展望 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
7	<p>財政の将来展望について、「中長期的には歳出が歳入を上回ることから、法人市民税の税割割合を伸ばすなどの歳入基盤の強化や効率化などによる歳出削減が必要」と記載があるが具体案がない。</p>	1件	<p>具体的な方策については戦略プランで示していますが、ここでは推計から読み取れる事実のみを記載するように修正します。</p>

○ 目指すまちの姿 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
8	<p>「Ⅰ 魅力をみんなで創るまち」の2030年の未来像「・公園の中に街があるような緑豊かなゆとりある街並みや、つくばでしか体験できないコトが街中に散りばめられています。」について、人工的な「公園」ではなく、「自然公園」に改めるべきである。</p>	1件	<p>「自然公園」は公園の種別を表す用語であることや、指摘の内容は現在の表記に含まれていると考えています。</p>
9	<p>「Ⅱ 誰もが自分らしく生きるまち」の2030年の未来</p>	1件	<p>指摘の内容は現在の表記に含まれていると考えています。</p>

	<p>像「筑波山や牛久沼などの美しい景観や豊かで多様な生態系により、多くの人々が自然の恩恵を実感しながら自然を守り育てる意識を持って生活しています。」について、「筑波山や牛久沼など」の表記を「筑波山や牛久沼、里山、いくつもの河川など」に改めるべきである。</p>		
10	<p>まちづくりにエネルギーの視点を盛り込んでいただきたい。「Ⅱ 誰もが自分らしく生きるまち」として、「環境に優しいまちづくり」と「災害に強いまちづくり」という概念を盛り込み、エネルギー利用の効率化や新エネルギーの活用による都市の低炭素化とエネルギーの多様化・多重化による都市防災機能の向上と合わせて、まちづくりを推進していただきたい。</p>	1件	<p>「災害に強いまちづくり」については「Ⅱ 誰もが自分らしく生きるまち」に含まれており、「環境に優しいまちづくり」については「Ⅳ 市民のために科学技術をいかすまち」に含まれていると考えています。エネルギー利用の効率化や多重化は非常に重要な視点であるため、未来構想及び戦略プランで示した施策の推進に当たり、参考にさせていただきます。</p>
11	<p>「自分らしく生きる」の定義が分かりづらく、この項で書かれた内容と「自分らしく生きる」ということはつながっていないため、抽象的な表現は極力さけて説明して欲しい。</p>	1件	<p>「自分らしく生きること」は、社会から孤立することなく、市民一人ひとりが、自分が選んだ生き方ができていると感じられることであり、そのような選択肢を用意されているまちの姿を目指すべきであると考えています。</p>
12	<p>「Ⅲ 未来をつくる人が育つまち」における「自分たちのまちと世界の未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいけるよう、自ら行動する人が育つま</p>	1件	<p>未来について考えるに当たり、「まちについて知る」ことが最初の一步であることから、内容を追記します。</p>

ち。」について、「つくば市の自然と歴史を知り、自分のすむ地域と世界の未来について考え～」と修正すべきである。		
--	--	--

○ 土地利用構想・コンパクトシティ について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
13	東京都のように人口過密でどこもかしこも発展させられるわけではないことから、コンパクトシティに向け、限りある予算の選択と集中は進めるべきである。つくば市でも3Dプリンタでの住宅などの実験モデル地域や特区があってもいいのではないか。	1件	市では、土地利用構想において示すとおり、研究学園都市地域及びつくばエクスプレス沿線地域、産業集積地域からなる地域をハブアンドスポーク構造のハブの役割をとなる田園都市ゾーンとし、都市機能の集積をいかすとともに、国際都市としての拠点となるよう、商業・業務・サービス機能や研究・教育機関、住居機能等の都市機能の充実を目指します。 また、都市計画に関する基本的な方針である「つくば市都市計画マスタープラン 2015」で定めた「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現に向け、立地適正化計画を策定し取り組みを進めています
14	「自然災害の頻度が高い地域には住宅は建てさせない」「安全地域へのコンパクトシティの推進」を表明すべきである。	1件	土地利用構想では土地利用の基本的な方向性を示すものであり、危険区域や災害等については、個別計画で詳細を定めています。
15	地域生活拠点について、「徒歩や自転車での移動を基本」に駅近に無料駐輪場の整備とその維持管理として雇用を創出すべき。	1件	地域生活拠点は、主に周辺地域である田園集落ゾーンとして定めていることに加え、自転車の利用促進については戦略プラン及び個別計画において詳細を定めています。

16	<p>農産物やエネルギーの地産地消について記載すべきである。農地をなくす太陽光発電は規制し、中心市街地では太陽光発電を義務化する条例などを制定する必要がある。</p> <p>「周辺市街地地域」、「集落・里山地域」に雑木林や里山の保全について記載すべきである。生物多様性をはぐくむ環境が身近にあることがつくば市の魅力となる。</p>	1件	<p>土地利用構想では土地利用の基本的な方向性を示すものであり、エネルギーや環境保全・活用等については、個別計画で詳細を定めています。</p>
17	<p>都市防災の強化を図るため、エネルギー多様化・多重化を推進していただきたい。土地利用構想の目指すべき都市構造における「①田園都市ゾーン」において、地震や台風等の災害による停電等のエネルギー供給途絶リスクを回避・緩和するために、エネルギー供給源の多様化・多重化、具体的には都市ガス等による常用分散発電を推進していただきたい。</p>	1件	<p>土地利用構想では土地利用の基本的な方向性を示すものであり、エネルギー多様化・多重化については、戦略プランの個別施策、及び個別計画で詳細を定めています。エネルギー多様化・多重化は非常に重要な視点であるため、今後の施策の推進に当たり、参考にさせていただきます。</p>
18	<p>ハブアンドスポーク型都市構造に向けて、中心市街地に就労場所をつくっていただきたい。引きつける力（定住・交流）のあるまちづくりを目指し、地元の行政・住民等に加えて、新たにつくば市に進出する企業や移り住む住民の視点を取り入れて、実現に向けて取り組んでいただきたい。</p>	1件	<p>土地利用構想で定めた各地域・地区において、既存産業の集積や新産業の創出拠点を誘導することとしており、特に「つくば中心市街地地区」においては、特に商業・業務機能等の集積を図ることとしています。あわせて、中心市街地のまちづくりについては、戦略プランの個別施策、及び個別計画で詳細を定めています。中心市街地の活性化は非常に重要な視点であるた</p>

			め、今後の施策の推進に当たり、参考にさせていただきます。
--	--	--	------------------------------

○ つくば市の歴史等 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
19	つくば市でも文化財を育てていく考えが必要で、予備軍となる建築や改築を助成し、将来的な文化財を増やしていくべきである。	1件	未来構想及び戦略プランで示した施策の推進に当たり、参考にさせていただきます。

○ 本文表記や図表等 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
20	全体的に図表が小さく分かりづらい。また、凡例の表記が統一されておらず、見方が混乱する。	1件	図表及び凡例の見やすさについては、全体的に改善を行いたいと思います。
21	全体としてカタカナ用語を減らし、市民に分かりやすい日本語で表記すべきである。	1件	一般的でないカタカナ語については使用を控え、固有名詞やニュアンスが正確に伝わらないものについては本文での説明や注釈で対応したいと思います。

■ 修正の内容

○ 第1章 構想の目的・構成・期間 について

修正前	修正後
<p>(2段落目)</p> <p>つくば市は、日本や世界を取り巻く社会情勢をはじめ、つくば市の地域特性、市民ニーズ、人口・財政の現状等を考慮し、時代の流れや変化を的確に捉え、中長期的視点を持って取<u>組</u>むことで、諸課題を克服しながら次の世代に継承・発展させていく「持続可能都市」を目指します。</p>	<p>(2段落目)</p> <p>つくば市は、日本や世界を取り巻く社会情勢をはじめ、つくば市の地域特性、市民ニーズ、人口・財政の現状等を考慮し、時代の流れや変化を的確に捉え、中長期的視点を持って取<u>り</u>組むことで、諸課題を克服しながら次の世代に継承・発展させていく「持続可能都市」を目指します。</p>
<p>(3段落目)</p> <p>そのため、21世紀半ばまでを見据えたまちづくりの<u>基本</u>理念と目指すまちの姿を定めるとともに、中間目標として、2030年の未来像を示し、その実現に向けた今後5年間の市の戦略・<u>取組み</u>を定めます。</p>	<p>(3段落目)</p> <p>そのため、21世紀半ばまでを見据えたまちづくりの<u>基本</u>理念と目指すまちの姿を定めるとともに、中間目標として、2030年の未来像を示し、その実現に向けた今後5年間の市の戦略・<u>取組</u>を定めます。</p>

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第1章、1 改定の背景・目的 について

修正前	修正後
<p>(2段落目)</p> <p>また、<u>国が提唱する第4次産業革命</u>や<u>Society5.0</u>と呼ばれる新たな<u>未来</u>像が示さ<u>る</u>とともに、2015年9月に国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダが採択され<u>る</u></p>	<p>(2段落目)</p> <p>また、<u>経済的発展と社会的課題の解決を両立する</u> Society5.0 と呼ばれる新たな<u>社会</u>像が示さ<u>れ</u>るとともに、2015年9月に国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、<u>人間、地球及び繁栄のための行動計画</u>として、<u>宣言および目標を</u>かけました。これが、17の目標と169のターゲットからなる「SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開</p>

「誰一人取り残さない」という包摂的な理念の下、持続可能な開発のための様々な取組が世界共通で進められています。	「誰一人取り残さない」という包摂的な理念の下、持続可能な開発のための様々な取組が世界共通で進められています。
--	--

○ 第1章、3 構成および計画期間 について

修正前	修正後
(1 段落目) まちづくりの <u>基本</u> 理念や目指すまちの姿を示した未来構想と、その実現のための主要な施策等を示した戦略プランから構成します。	(1 段落目) まちづくりの <u> </u> 理念や目指すまちの姿を示した未来構想と、その実現のための主要な施策等を示した戦略プランから構成します。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第2章、1 社会情勢(1) 少子・高齢化の進行とまち・ひと・しごと創生 について

修正前	修正後
(2 段落目) また、合計特殊出生率 ¹ は <u>2015</u> 年に <u>1.45</u> と、全国的に少子化の傾向にあります。一方、 <u> </u> 65 歳以上人口の割合 ² が <u>26.6%</u> を超え 4 人に一人を上回る状態となっており、この傾向は、第二次ベビーブーム世代が老年人口に入る 2042 年頃まで続き、世界でも例をみない高齢社会を迎えています。	(2 段落目) また、合計特殊出生率 ² は <u>2018</u> 年に <u>1.42</u> と、全国的に少子化の傾向にあります。一方、 <u>高齢化率</u> (65 歳以上人口の割合) が <u>28.1%</u> を超え 4 人に一人を上回る状態となっており、この傾向は、第二次ベビーブーム世代が老年人口に入る 2042 年頃まで続き、世界でも例をみない高齢社会を迎えています。
記載なし	² <u>その年次における 15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が、仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に子どもを生むと仮定したときの子ども数に相当。</u>

※パブリックコメントによるものではありませんが、数値を最新のものに修正し、語句の注釈を追記しました。

○ 第2章、1 社会情勢(3) AI・IoTなどの科学技術の進展 について

ました。

○ 第3章 地域特性 について

修正前	修正後
(2段落目) これをいかし、子育て世代や意欲・アイデアのある人・企業を呼び込むことで、中心市街地・周辺市街地の <u>賑わい</u> 低下やコミュニティの希薄化、農業の後継者不足などの将来見込まれるリスクを回避することが考えられます。	(2段落目) これをいかし、子育て世代や意欲・アイデアのある人・企業を呼び込むことで、中心市街地・周辺市街地の <u>にぎわい</u> 低下やコミュニティの希薄化、農業の後継者不足などの将来見込まれるリスクを回避することが考えられます。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第3章 地域特性 1 地域の強み について

修正前	修正後
(1) 自然環境に恵まれた <u>まち</u>	(1) 自然環境に恵まれ <u>悠久の歴史があるまち</u>

○ 第3章 地域特性 1 地域の強み(1)自然環境に恵まれ悠久の歴史があるまち について

修正前	修正後
つくば市は、茨城県の南西部、首都東京から北東に約 50km、 <u>新東京国際空港(成田空港)</u> から北西に約 40km の距離に位置し <u> </u> 、北に関東の名峰筑波山を、東に日本第2位の面積を誇る霞ヶ浦を控え、これら一帯は水郷筑波国定公園に指定されています。	つくば市は、茨城県の南西部、首都東京から北東に約 50km、 <u>成田国際空港</u> から北西に約 40km の距離に位置しています。北に関東の名峰筑波山を、東に日本第2位の面積を誇る霞ヶ浦を控え、これら一帯は水郷筑波国定公園に指定されています。
記載なし	<u>また、このような豊かな自然環境の中、約4万年前の原始時代から研究学園都市に象徴される現代まで、連続して人々が暮らしてきた地域です。いくつかの時代には茨城県(常陸国)の一大中心地であったため、市域に</u>

	はその歴史を示す国指定文化財をはじめ、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を含め多くの文化財が所在しています。
--	---

○ 第3章 地域特性 1 地域の強み(2)科学のまち・研究学園都市 について

修正前	修正後
(1段落目) 研究学園都市の建設による市街地・街並みの変化に伴い、多様な人や価値観が流入し、それまでの農業を中心とした集落・周辺市街地に加えて、変化や成長を促進する研究学園都市へと変化しています。	(1段落目) 研究機関や大学等の建設による市街地・街並みの変化に伴い、多様な人や価値観が流入し、それまでの農業を中心とした集落・周辺市街地に加えて、変化や成長を促進する研究学園都市へと変化しています。
(3段落目) また、平成23年には、「つくば国際戦略総合特区」に指定されるなど、各研究機関と自治体が連携し、新しい産学官連携の拠点を構築するとともに、つくば発の研究成果の実用化をめざしています。	(3段落目) また、2011年には、「つくば国際戦略総合特区」に指定されるなど、各研究機関と自治体が連携し、新しい産学官連携の拠点を構築するとともに、つくば発の研究成果の実用化をめざしています。

※パブリックコメントによるものではありませんが、語句を修正し、年号を西暦で統一するため修正しました。

○ 第3章 地域特性 1 地域の強み(3)各種交通網と交通結節点 について

修正前	修正後
(1段落目) 南北に細長い市域の中には常磐自動車道や首都圏中央連絡自動車道の高速道路等のインターチェンジがあり、自動車で東京（箱崎ジャンクション）まで約40分、成田空港まで約45分の所要時間であることに加え、国道6号、125号、408号等の国道や東大通り、土浦学園線などの主要県道を有し、市道も管理延長が約3,700kmを超えるなど道路網が発達してい	(1段落目) 南北に細長い市域の中には常磐自動車道や首都圏中央連絡自動車道の高速道路等のインターチェンジがあり、自動車で東京（箱崎ジャンクション）まで約40分____の所要時間であることに加え、国道6号、125号、408号等の国道や東大通り、土浦学園線などの主要県道を有し、市道も管理延長が約3,700kmを超えるなど道路網が発達してい

ます。	ます。
(2段落目) 空路においては、茨城空港をはじめ、 <u>新東京国際空港(成田空港)</u> 、東京国際空港(羽田空港)の3空港に近接しています。	(2段落目) 空路においては、茨城空港をはじめ、 <u>成田国際空港</u> 、東京国際空港(羽田空港)の3空港に近接しています。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第3章 地域特性 1 地域の強み(4)多様な人材とその循環 について

修正前	修正後
(1段落目) また、総人口の4%にあたる <u>9,400</u> 人の外国人が居住するなど、国内・国外の多様なルーツを持つ人材や文化の集合体・サラダボウルとなっています。	(1段落目) また、総人口の4%にあたる <u>約9,400</u> 人の外国人が居住するなど、国内・国外の多様なルーツを持つ人材や文化の集合体・サラダボウルとなっています。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を修正しました。

○ 第3章 地域特性 1 地域の強み(5)多様な学校・教育施設と人材育成 について

修正前	修正後
(3段落目) そのほか、つくば市には国際色豊かなインターナショナルスクールや国際バカロレア(IB)認定校 <u>をはじめ</u> 、多様で自由、かつ高度な教育を享受することができます。	(3段落目) そのほか、つくば市には国際色豊かなインターナショナルスクールや国際バカロレア(IB)認定校 <u>等が所在し</u> 、多様で自由、かつ高度な教育を享受することができます。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を修正しました。

○ 第3章 地域特性 2 地域の弱み・リスク について

修正前	修正後
(1) 広い市域と中心市街地・周辺市街地の <u>賑わい</u> 低下	(1) 広い市域と中心市街地・周辺市街地の <u>にぎわい</u> 低下

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第3章 地域特性 2 地域の弱み・リスク(1)広い市域と中心市街地・周辺市街地のにぎわい低下 について

修正前	修正後
(1 段落目) つくば市は、市内の総面積の 85%が可住地であり、県内一の可住地面積 241.55 km ² を誇る一方、 <u>周辺市街地も</u> 分散しています。	(1 段落目) つくば市は、市内の総面積の 85%が可住地であり、県内一の可住地面積 241.55 km ² を誇る一方、 <u>周辺市街地が</u> 分散しています。
(2 段落目) また、近年ではロードサイドショップや郊外型大型商業施設の立地が進んだこと <u>や</u> 市民の消費行動などの変化等の影響もあり、中心市街地では大型店舗が閉店するなどかつての <u>賑わい</u> が失われ、かつ <u>小規模</u> 商店においても影響を受けています。	(2 段落目) また、近年ではロードサイドショップや郊外型大型商業施設の立地が進んだこと <u>に加え</u> 市民の消費行動などの変化等の影響もあり、中心市街地では大型店舗が閉店するなどかつての <u>にぎわい</u> が失われ、かつ <u>市内の小規模</u> 商店においても影響を受けています。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を修正しました。

○ 第3章 地域特性 2 地域の弱み・リスク(3)産業構造と市税収入における課題 について

修正前	修正後
(1 段落目) 農業については、本市の総面積 <u>28,407ha</u> のうち、農地の占める割合は39.6%であることから、主要産業の一つですが、農業従事者の高齢化や他産業への流出等に伴う後継者不足、都市化の進展による農村環境の変化などの課題を抱えています。	(1 段落目) 農業については、本市の総面積 <u>284.1km²</u> のうち、農地の占める割合は39.6%であることから、主要産業の一つですが、農業従事者の高齢化や他産業への流出等に伴う後継者不足、都市化の進展による農村環境の変化などの課題を抱えています。

※パブリックコメントによるものではありませんが、表記を統一するため修正しました。

○ 第3章 地域特性 2 地域の弱み・リスク(4)生活インフラの更新・新設と空き地・空き家の増加 について

修正前	修正後
<p>(1段落目) つくば市の_____学校や保育所、交流センターなどの公共建築物や、道路や上下水道などの公共施設 (以下、生活インフラという。) は、筑波研究学園都市の建設時期に集中して整備されました。</p>	<p>(1段落目) つくば市の<u>生活インフラ</u> (学校や保育所、交流センターなどの公共建築物や、道路や上下水道などの公共施設) は、筑波研究学園都市の建設時期に集中して整備されました。</p>

※パブリックコメントによるものではありませんが、分かりやすい文言に修正しました。

○ 第3章 地域特性 3 SDGsの取組と施策・事務事業の特性 について

修正前	修正後
<p>【比較的<u>取組み</u>が進んでいると言える分野】 (略)</p> <p>【比較的<u>取組み</u>が遅れていると言える分野】 (略)</p>	<p>【比較的<u>取組</u>が進んでいると言える分野】 (略)</p> <p>【比較的<u>取組</u>が遅れていると言える分野】 (略)</p>

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第4章 市民の声 1 つくば市の未来の明るさと目指すべき社会像 について

修正前	修正後
<p>(1段落目) <u>市民向けアンケート</u>調査では、30歳代や30歳未満を中心に、若年層でつくば市の未来は明るいと感じると答えた方が多い結果となっています。</p>	<p>(1段落目) <u>市民</u> <u>アンケート</u>では、30歳代や30歳未満を中心に、若年層でつくば市の未来は明るいと感じると答えた方が多い結果となっています。</p>

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第4章 市民の声 2 未来に対する意識・未来への不安 について

修正前	修正後
2 未来に対する意識・未来に <u>不</u> 不安	2 未来に対する意識・未来への <u>不</u> 不安

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を修正しました。

○ 第4章 市民の声 4 今後力を入れるべき取組 について

修正前	修正後
(2段落目) 一方、重要度も満足度も高い取組として、「居住環境」「教育」「中心市街地・TX沿線の活性化」の <u>3つ</u> の取組については、満足度が特に高く、つくば市の強みといえます。	(2段落目) 一方、重要度も満足度も高い取組として、「居住環境」「教育」「中心市街地・TX沿線の活性化」の <u>三つ</u> の取組については、満足度が特に高く、つくば市の強みといえます。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第4章 市民の声 5 働く年齢について について

修正前	修正後
市民アンケートの結果、働く年齢については「65歳以上で健康に働けるまで」が37.0%、「年齢に限らず、生涯何らかの仕事に携わりたい」が20.8%となり、65歳以上でも働く意欲のある方が57.8%となり、過半数の方が定年後も働きたいと考えていることが分かり、合わせて地域の <u>取組み</u> やまちづくりへの参画が期待されます。	市民アンケートの結果、働く年齢については「65歳以上で健康に働けるまで」が37.0%、「年齢に限らず、生涯何らかの仕事に携わりたい」が20.8%となり、65歳以上でも働く意欲のある方が57.8%となり、過半数の方が定年後も働きたいと考えていることが分かり、合わせて地域の <u>取組</u> やまちづくりへの参画が期待されます。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第5章 人口・財政の現状と推計フレーム について

修正前	修正後
(2段落目) 市内の高 <u>齢者</u> 率は全国平均よりも低	(2段落目) 市内の高 <u>齢化</u> 率は全国平均よりも低

2 時点での人口増減は、つくば駅を始めとしたTX沿線の鉄道駅で人口が増加傾向にあることがみてとれます。	二時点での人口増減は、つくば駅を始めとしたTX沿線の鉄道駅で人口が増加傾向にあることがみてとれます。
図18 2010年-2030年地域別人口増減数 (出典：国土数値情報、社人研推計値を_____国土政策局編集)	図18 2010年-2030年地域別人口増減数 (出典：国土数値情報、社人研推計値を <u>国土交通省</u> 国土政策局編集)

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正し、図の出典を修正しました。

○ 第5章 人口・財政の現状と推計フレーム 2 つくば市の将来人口の推計 (2) 生産年齢人口の推移 について

修正前	修正後
年齢別の人口は、生産年齢人口については全体としてある程度維持されていますが、子育て層は徐々に減少傾向にあります。生産年齢人口の減少とあわせて <u>高齢者層</u> が徐々に増加していくこととなっています。	年齢別の人口は、生産年齢人口や <u>年少人口</u> は徐々に減少傾向にあります。生産年齢人口の減少とあわせて <u>老年人口</u> が徐々に増加していくこととなっています。

※パブリックコメントによるものではありませんが、分かりやすい文言に修正しました。

○ 第5章 人口・財政の現状と推計フレーム 2 つくば市の将来人口の推計 (3) 高齢者推移 について

修正前	修正後
日本全体の高齢化率と比較すると、高齢化率は <u>現在 (2015年)</u> の18%から2035年時点で27%まで増加すると推算されており、高齢化社会への一層の備えが必要となります。	日本全体の高齢化率と比較すると、高齢化率は <u>2015年</u> の18%から2035年時点で27%まで増加すると推算されており、高齢化社会への一層の備えが必要となります。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第5章 人口・財政の現状と推計フレーム 2 関係人口 について

修正前	修正後
-----	-----

<p>(1 段落目) 「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる<u>者</u>をいいます。</p>	<p>(1 段落目) 「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる<u>人</u>をいいます。</p>
<p>(2 段落目) つくば市における地域外の方の関わりを調査したところ、つくば市との関わりでは、「不定期に訪問する」と回答した方が最も多く 4 割程度で、「定期的に訪問する」と回答した方とあわせると半数を超える結果となった一方、「訪れたことはない」と回答した方も 4 割程度<u>いました。</u></p>	<p>(2 段落目) つくば市における地域外の方の関わりを調査したところ、つくば市との関わりでは、「不定期に訪問する」と回答した方が最も多く 4 割程度で、「定期的に訪問する」と回答した方とあわせると半数を超える結果となった一方、「訪れたことはない」と回答した方も 4 割程度<u>となりました。</u></p>
<p>(3～4 段落目) 訪れる頻度は、「年に数回程度」が半数程度で最も多い結果となり、訪問頻度を上げる<u>取り組み</u>が重要となることや「1 度だけ訪れたことがある」と回答した方の再訪につながる<u>取り組み</u>を通じて、頻度の向上を図ることが重要となります。 つくば市が将来どのようなまちになってほしいかは、「自然環境や資源を大切にすまち」と「福祉や医療が充実したまち」が挙げられており、次いで、「科学技術の活用により、様々な課題を解決するまち」「教育の質が高く、生涯学び続けられるまち」が続いており、未来構想の<u>取組み</u>を通じて実現することが望まれます。</p>	<p>(3～4 段落目) 訪れる頻度は、「年に数回程度」が半数程度で最も多い結果となり、訪問頻度を上げる<u>取組</u>が重要となることや「1 度だけ訪れたことがある」と回答した方の再訪につながる<u>取組</u>を通じて、頻度の向上を図ることが重要となります。 つくば市が将来どのようなまちになってほしいかは、「自然環境や資源を大切にすまち」と「福祉や医療が充実したまち」が挙げられており、次いで、「科学技術の活用により、様々な課題を解決するまち」「教育の質が高く、生涯学び続けられるまち」が続いており、未来構想の<u>取組</u>を通じて実現することが望まれます。</p>

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第5章 人口・財政の現状と推計フレーム 4 財政の現状分析 について

修正前	修正後
(1段落目) つくば市の財政規模は <u>平成29年度</u> 決算において909億円で、市税収入は444億円で約半数を占めています。	(1段落目) つくば市の財政規模は <u>2017年度</u> 決算において909億円で、市税収入は444億円で約半数を占めています。

※パブリックコメントによるものではありませんが、年号を西暦で統一するため修正しました。

○ 第6章 まちづくりの理念及び目指すまちの姿 について

修正前	修正後
(2段落目) そのために、21世紀半ばまでを見据えたまちづくりの <u>基本</u> 理念として、「つながりを力に未来をつくる」を掲げます。	(2段落目) そのために、21世紀半ばまでを見据えたまちづくりの <u>_____</u> 理念として、「つながりを力に未来をつくる」を掲げます。

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正しました。

○ 第6章 まちづくりの理念及び目指すまちの姿 2 目指すまちの姿 について

修正前	修正後
Ⅲ 未来をつくる人が育つまち 自分たちのまちと世界の <u>_____</u> 未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいけるよう、自ら行動する人が育つまち。	Ⅲ 未来をつくる人が育つまち 自分たちのまちと世界を <u>知り</u> 、未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいけるよう、自ら行動する人が育つまち。

○ 第7章 人口ビジョン について

修正前	修正後
(1段落目) つくば市は、まちづくりの <u>基本</u> 理念のもと、目指すまちの姿に向けて、地域の強みを活かした取組を進めることで、2048年に約29万人のピークを迎える人口ビジョンを目指します。	(1段落目) つくば市は、まちづくりの <u>_____</u> 理念のもと、目指すまちの姿に向けて、地域の強みを活かした取組を進めることで、2048年に約29万人のピークを迎える人口ビジョンを目指します。
(2段落目) 一方、歳入は、人口増に伴う個人市民税や固定資産税の増などが見込ま	(2段落目) 一方、歳入は、人口増に伴う個人市民税や固定資産税の増などが見込ま

れるものの、中長期的には歳出が歳入を上回ることから、 <u>法人市民税の</u> <u>税収割合を伸ばすなどの歳入基盤の強化や効率化などによる歳出削減</u> が必要 <u>です</u> 。	れるものの、中長期的には歳出が歳入を上回ることから、 <u>行財政改革</u> に <u>関わる</u> <u>不断の努力</u> <u>が</u> <u>必要</u> <u>です</u> 。
---	--

○ 第7章 人口ビジョン 1 人口の将来展望 について

修正前	修正後
<p>(1 段落目)</p> <p>目標人口は、これまでの人口推移や沿線の市街地開発等をふまえ、各開発地区での定着見込みについて考慮します。加えて、人口のピークを大きくし、遅らせ、かつ人口を維持していくためには社会増と自然増の両方で積極的な政策を行っていく必要があることから、定着人口の維持および自然増加として、</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <p>合</p> <p>計特殊出生率が2030年に1.8、2040年に2.1に向上すると仮定して推計します。</p>	<p>(1 段落目)</p> <p>目標人口は、これまでの人口推移や沿線の市街地開発等をふまえ、各開発地区での定着見込みについて考慮します。加えて、人口のピークを大きくし、遅らせ、かつ人口を維持していくためには社会増と自然増の両方で積極的な政策を行っていく必要があることから、定着人口の維持および自然増加を<u>目指</u> <u>し</u> <u>ま</u> <u>す</u>。<u>国</u> <u>の</u> <u>長</u> <u>期</u> <u>ビ</u> <u>ジ</u> <u>ョ</u> <u>ン</u> <u>に</u> <u>お</u> <u>け</u> <u>る</u> <u>合</u> <u>計</u> <u>特</u> <u>殊</u> <u>出</u> <u>生</u> <u>率</u> <u>に</u> <u>つ</u> <u>い</u> <u>て</u>、<u>現</u> <u>在</u> <u>の</u> <u>人</u> <u>口</u> <u>を</u> <u>維</u> <u>持</u> <u>す</u> <u>る</u> <u>た</u> <u>め</u> <u>に</u> <u>必</u> <u>要</u> <u>な</u> <u>水</u> <u>準</u> <u>(</u> <u>人</u> <u>口</u> <u>置</u> <u>換</u> <u>水</u> <u>準</u> <u>)</u> <u>で</u> <u>あ</u> <u>る</u> <u>2.1</u> <u>を</u> <u>目</u> <u>指</u> <u>す</u> <u>こ</u> <u>と</u> <u>が</u> <u>示</u> <u>さ</u> <u>れ</u> <u>て</u> <u>い</u> <u>ま</u> <u>す</u>。<u>市</u> <u>と</u> <u>し</u> <u>て</u> <u>も</u>、<u>2015</u> <u>年</u> <u>に</u> <u>実</u> <u>施</u> <u>し</u> <u>た</u> <u>将</u> <u>来</u> <u>の</u> <u>希</u> <u>望</u> <u>出</u> <u>生</u> <u>数</u>⁵ <u>が</u> <u>2.05</u> <u>人</u> <u>と</u> <u>な</u> <u>っ</u> <u>て</u> <u>い</u> <u>る</u> <u>こ</u> <u>と</u> <u>か</u> <u>ら</u>、<u>国</u> <u>に</u> <u>準</u> <u>拠</u> <u>し</u>、<u>合</u> <u>計</u> <u>特</u> <u>殊</u> <u>出</u> <u>生</u> <u>率</u> <u>が</u> <u>2030</u> <u>年</u> <u>に</u> <u>1.8</u>、<u>2040</u> <u>年</u> <u>に</u> <u>2.1</u> <u>に</u> <u>向</u> <u>上</u> <u>す</u> <u>と</u> <u>仮</u> <u>定</u> <u>し</u> <u>て</u> <u>推</u> <u>計</u> <u>し</u> <u>ま</u> <u>す</u>。</p>
記載なし	⁵ <u>2015</u> <u>年</u> <u>に</u> <u>つ</u> <u>く</u> <u>ば</u> <u>市</u> <u>人</u> <u>口</u> <u>ビ</u> <u>ジ</u> <u>ョ</u> <u>ン</u> <u>を</u> <u>策</u> <u>定</u> <u>す</u> <u>る</u> <u>際</u> <u>に</u> <u>実</u> <u>施</u> <u>し</u> <u>た</u> <u>市</u> <u>民</u> <u>ア</u> <u>ン</u> <u>ケ</u> <u>ー</u> <u>ト</u> <u>か</u> <u>ら</u> <u>算</u> <u>出</u> <u>し</u> <u>た</u> <u>「</u> <u>将</u> <u>来</u> <u>予</u> <u>定</u> <u>・</u> <u>希</u> <u>望</u> <u>す</u> <u>る</u> <u>子</u> <u>ど</u> <u>も</u> <u>の</u> <u>数</u> <u>」</u>
<p>図28 人口の将来展望</p> <p>※<u>平成27年(2015年)国勢調査</u>の人口を基準としてコーホート要因法を用いて実施。開発地区の定着人口は、区画整理のビルドアップ率より想定</p>	<p>図28 人口の将来展望</p> <p>※<u>2018年住民基本台帳</u>の人口を基準としてコーホート要因法を用いて実施。開発地区の定着人口は、区画整理のビルドアップ率より想定</p>

し、出生率向上効果を見込んで推計。し、出生率向上効果を見込んで推計。

○ 第7章 人口ビジョン 2 財政の将来展望 について

修正前	修正後
(2段落目) つくば市においても高齢化の進展等により扶助費が増加 <u>することから、</u> <u>2020年以降は、歳入と歳出が拮抗し、</u> <u>2035年以降に歳出が歳入を上回る状況が推測されることから、</u> 行財政改革に関わる不断の努力が必要です。	(2段落目) つくば市においても高齢化の進展等により扶助費が増加 <u>し、歳出が増加</u> <u>の一途をたどる一方、</u> <u>歳出が歳入を上回る状況が推測されることから、</u> 行財政改革に関わる不断の努力が必要です。
図29 財政の将来展望 ※ <u>歳出が歳入を上回る状況について(再掲)</u> <u>平成30年(2018年)度</u> 現在、つくば市は地方交付税の不交付団体であることに加え、将来にわたる交付税の交付額の算定が難しいことから、歳入には交付税が含まれておりません。	図29 財政の将来展望 ※ <u>歳入の将来展望と歳出が歳入を上回る状況について</u> <u>2018年度</u> 現在、つくば市は地方交付税の不交付団体であることに加え、将来にわたる交付税の交付額の算定が難しいことから、歳入には交付税が含まれておりません。

○ 第8章 土地利用構想 2 目指すべき都市構造 (1)土地利用の考え方 について

修正前	修正後
市域に <u>3</u> つのゾーン ⁷ を設定し、それぞれの特徴を踏まえた魅力的な土地利用を促進します。	市域に <u>三</u> つのゾーン ⁷ を設定し、それぞれの特徴を踏まえた魅力的な土地利用を促進します。
①田園都市ゾーン (ア) 地域 田園都市ゾーンを <u>3</u> つに区分する地域 (イ) 地区 田園都市ゾーンに中でも特に重要となる <u>2</u> つの拠点	①田園都市ゾーン (ア) 地域 田園都市ゾーンを <u>三</u> つに区分する地域 (イ) 地区 田園都市ゾーンに中でも特に重要となる <u>二</u> つの拠点
②田園集落ゾーン (ア) 地域 田園集落ゾーンを大きく <u>2</u> つに区分	②田園集落ゾーン (ア) 地域 田園集落ゾーンを大きく <u>二</u> つに区分

<p>する地域</p> <p>○集落⁷・里山地域：田園集落ゾーンのうち、周辺市街地地域を除く地域（都市計画法に基づく区域区分が市街地調整区域である地域）</p> <p>記載なし</p>	<p>する地域</p> <p>○集落⁸・里山地域：田園集落ゾーンのうち、周辺市街地地域を除く地域（都市計画法に基づく区域区分が市街地調整区域である地域）</p> <p>⁸近接・連続している集落群も含む。</p>
---	---

※パブリックコメントによるものではありませんが、文言を統一するため修正し、語句の注釈を追記しました。

○ 第8章 土地利用構想 2 目指すべき都市構造（2）ゾーンにおける土地利用の方針 について

修正前	修正後
<p>①田園都市ゾーン</p> <p>（イ）地区</p> <p>・研究学園駅周辺地区（略称：研学園駅周辺地区または研学園地区）</p> <p>あわせて、駅に近接し、新たな生活インフラが整備された市街地の<u>ポテンシャル</u>を最大限引き出し、商業・業務機能の更なる集積を図るとともに、必要に応じた土地利用の見直しにより、中心市街地の機能と連携する副都心としてのまちづくりを進めます。</p> <p>記載なし</p>	<p>①田園都市ゾーン</p> <p>（イ）地区</p> <p>・研究学園駅周辺地区（略称：研学園駅周辺地区または研学園地区）</p> <p>あわせて、駅に近接し、新たな生活インフラが整備された市街地の<u>可能性</u>を最大限引き出し、商業・業務機能の更なる集積を図るとともに、必要に応じた土地利用の見直しにより、中心市街地の機能と連携する副都心としてのまちづくりを進めます。</p> <p>⁸都市の郊外に無秩序・無計画に宅地が伸び広がっていくこと。</p>
<p>②田園集落ゾーン</p> <p>（ア）地域</p> <p>○集落・里山地域</p> <p>市街化を抑制してスプロール化⁹を防ぎつつ、既存環境や農地の保全を推進し、つくばの特徴である田園空間の保全・創出に努めます。</p> <p>記載なし</p>	<p>②田園集落ゾーン</p> <p>（ア）地域</p> <p>○集落・里山地域</p> <p>市街化を抑制してスプロール化⁹を防ぎつつ、既存環境や農地の保全を推進し、つくばの特徴である田園空間の保全・創出に努めます。</p> <p>⁸都市の郊外に無秩序・無計画に宅地が伸び広がっていくこと。</p>
<p>②田園集落ゾーン</p> <p>（イ）地域生活拠点</p> <p>○ハブアンドスポーク型都市構造の目指す地域の生活拠点</p>	<p>②田園集落ゾーン</p> <p>（イ）地域生活拠点</p> <p>○ハブアンドスポーク型都市構造の目指す地域の生活拠点</p>

そのため、移動に無理のない範囲を <u>1つ</u> の生活圏域として設定し、生活圏域に「地域生活拠点」を設定することで、地域の生活や活動を支え、利便性と快適性を高めていきます。	そのため、移動に無理のない範囲を <u>一つ</u> の生活圏域として設定し、生活圏域に「地域生活拠点」を設定することで、地域の生活や活動を支え、利便性と快適性を高めていきます。
---	---

※パブリックコメントによるものではありませんが、語句の注釈を追記し、文言を統一するため修正しました。

○ 資料編 について

<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能都市ヴィジョン 	<ul style="list-style-type: none"> 1 持続可能都市ヴィジョン <u>2 策定経過</u> <u>3 審議会条例・名簿</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民・中学生・高校生・大学生アンケート調査の実施概要 	<ul style="list-style-type: none"> 4 市民・中学生・高校生・大学生アンケート調査の実施概要 <u>5 市民ワークショップの開催</u> <u>6 未来構想等策定職員ワーキングチーム</u> <u>7 図表目次</u>

※必要な資料を追加しました。